

淡路島における市民花壇の持続化に向けて ー市民参加型ナチュラリスティックガーデンの提案ー

活用デザイン領域
観賞園芸研究室
LM20L007 木崎詩恵

背景

淡路島の主な緑花の流れ

1985年頃	「花と緑あふれる島づくり」
1995年	阪神・淡路大震災
1997年	「あわじ花回廊計画」
1998年	あわじ花さじきの開園、明石海峡大橋の開通
1999年	兵庫県立淡路景観園芸学校の開校
2000年	「淡路公園島憲章」の制定、 淡路花博「ジャパンフローラ2000」の開催
2002年	「県民の参画と協働の推進に関する条例」の施行、花いっぱいモデル事業の実施
2003年	「全県花いっぱい推進プラン」の策定
2004年	「ひょうご花と緑の懇話会報告」の策定
2005年	行政合併(淡路市、洲本市、南あわじ市発足)、 花と緑あふれる美しい県土づくりアクションプログラム策定
2006年	「あわじ総合緑化プラン」策定
2008年	一般財団法人淡路島くにうみ協会の発足
2009年	淡路花博2010「花みどりフェア」の開催
...	...

緑花支援団体

(一財) 淡路島くにうみ協会
(公財) 兵庫県園芸・公園協会など

花・緑に関する施策が始まる。

民間の緑花グループが数多く誕生。
活動も活発に行われるように。

市民による公共スペース等の
市民花壇 を対象に緑花活動を推進。

バーベナあわじ、AGN など
他 200 団体

市民花壇の効果

まちなみ景観向上

コミュニティ形成

地域経済波及効果

山ら (2006) 東京女子大学園芸文化研究所報告 5

※オーブンガーデンに市民花壇も多く含まれるため
平田ら (2003) ランドスケープ研究 66(5)

高齢化などによる課題

後継者不足

維持管理負担

御手洗ほか (2015) ランドスケープ研究 75 (5)

兵庫県淡路県民局洲本土木事務所 (2006)
あわじ緑花プラン

緑花グループ存続の危機

淡路島への
移住者増加？

一部荒れた一年草花壇
植栽内容検討？

目的

市民花壇には多くの社会的意義があることから
緑花活動は継続されることが望ましいと考える。

淡路島の市民花壇の現状を把握し、
移住者の現状などを踏まえ、
①後継者不足解消②植栽管理
の両面から持続化に向けての提案を行う。

進め方

現状調査

現地調査

ヒアリング調査

提案の検討

アンケート調査

事例調査

提案

市民参加型
ナチュラリスティックガーデン
のモデルプラン作成

現状調査：オープンガーデン調査

オープンガーデンとは？

一定期間庭を公開するイベント。個人邸の庭に限らず市民花壇も含まれる。活動に賛同した人がグループを作り、公開日を決めて行う。

個人邸



市民花壇



花壇の現状や緑花イベント状況把握のため
2021年4月～5月にかけて
淡路地域「第20回あわじオープンガーデン」
神戸地域「14th KOBE OPENGARDEN2021」
多可町「多可オープンガーデン2021」を視察した。



庭主さんの声



オープンガーデンがあるからきれいにしようと思える。

花壇を見てくれたり、人との交流がうれしい。

オープンガーデンの活動がなくなると寂しくなる。

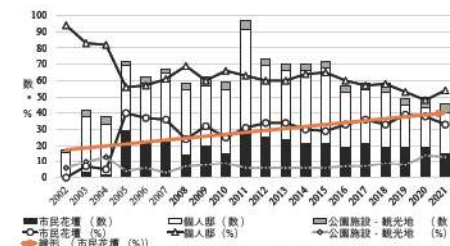
市民花壇は一年草主体が多く、個人邸と市民花壇を兼任している人も多い印象。個人邸ではバラと宿根草の流行りやその植物の活用を楽しむ様子が伺えた。

ソフト面の取り組み



神戸では、訪問者に対してHPで冊子がダウンロードできたり、Googleマップで庭の位置が確認できるなどの対応が見られた。
一方、あわじオープンガーデンではソフト面での対応に遅れがみられ、講習会を行うこととした。

あわじオープンガーデン 庭数・割合推移



あわじオープンガーデン過去パンフレットより作成
市民花壇、個人邸、公園施設・観光地に分類できる。

全体の参加庭数は減少傾向にあるが、市民花壇の割合は近似線（図中矢印）でみると上昇傾向にあり、庭数の維持、増やすためにも市民花壇への期待が高まっていると考えられる。

あわじオープンガーデン バックアップ



講習会の様子



マニュアル

あわじオープンガーデン実行委員の方々4名を対象にHPの更新方法やソフト利用の講習会を実施した。（2021年8月、2022年1月）
その際、簡単なマニュアルを作成した。

現状調査：ヒアリング調査

花壇に携わる人

市民花壇グループ代表者 3 名
市民花壇参加者 1 名
あわじオープンガーデン実行委員 4 名



質問内容

- ・活動のきっかけ、継続理由
- ・参加者の現状・課題

継続理由・よかったこと

- ・淡路を花で元気にしたい
- ・一緒に活動するのが心の癒し
- ・花壇の植物を楽しく活用している
- ・花以外にも交流のきっかけ
- ・楽しみながら活動している

課題

- ・体調不良・家族の世話のため
- ・活動のマンネリ化
- ・新規参加者がいない
- ・事務手続きが煩雑
- ・役割負担に偏りがある

〈活動の現状〉

後継者不足による様々な課題
「楽しみ」は重要な継続要素

支援側から

(一財) 淡路島くにうみ協会
(公財) 兵庫県園芸・公園協会
洲本土木事務所 まちづくり建築課



〈植栽などについて〉

- ・一年草の花壇は続かないことが多い。
- ・若い人を呼ぶにも新しいタイプの花壇は必要。
- ・さまざまな制度やサービスがあることがまだ周知されていない。

〈後継者について〉

- ・後継者不足の課題を感じている。
- ・自然消滅した緑花グループも多い。
- ・移住者が増えており、新規参加者として期待したい。

〈植栽について〉

新しいタイプの花壇必要？

移住者について

NPO 法人 あわじ FAN クラブ
NPO 法人 島くらし淡路



- ・移住者数：
前年比 5 ～ 17% 増（直近 5 年）
- ・相談件数：
前年比 1.2 倍
- ・最近 20・30 代の若年層が増加

土や自然に触れたい

循環的な暮らし

時間的余裕がある

地域に関わりたい

を求めてやってくる人が多い？

緑花グループの情報を知らなくて参加できない人が多いのでは？

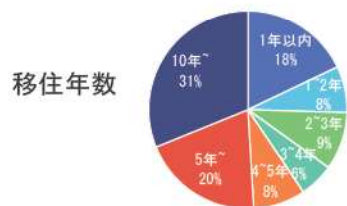
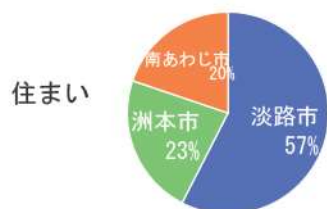
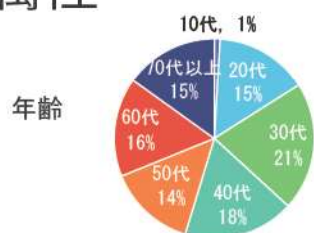
〈後継者について〉

移住者が緑花活動に参加するのではないか？

提案の検討：移住者を対象としたアンケート調査

調査方法：Google フォームによる端末利用
回答方法：プリコード回答法＋自由回答法
実施期間：2021年10月～11月
対象者：淡路島に移住した人
人数：106人

1. 属性



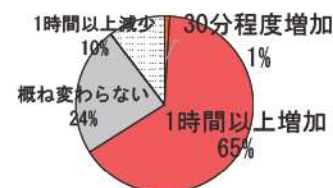
2. 移住について

転入理由（複数回答可）

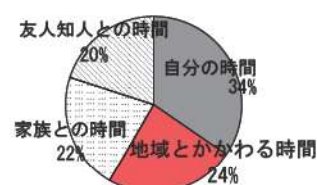


「自然環境」「スローライフ」「景色の良さ」を求めて移住する割合が多い。環境、景観を重視する傾向がある。

余暇時間の変化



余暇時間の利用（複数回答可）



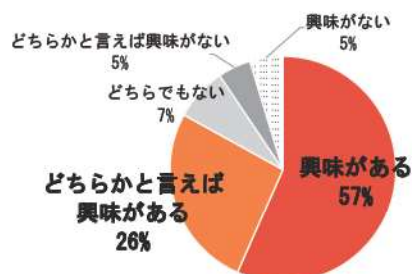
地域活動の情報収集媒体（複数回答可）



〈移住者について〉
環境や景観を重視し、地域とのつながりを求める傾向にある。

3. 緑花について

花のある暮らし（育てる、飾る、クラフトにするなど）への興味



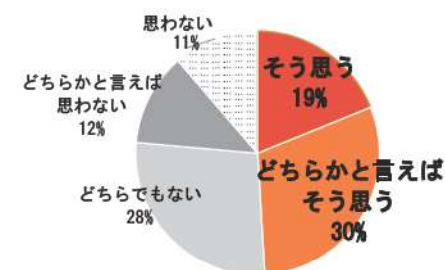
沿道花壇・コミュニティガーデンをみたことがあるか



ボランティアグループが手入れを行っていることを知っているか



既存の市民花壇への参加意欲



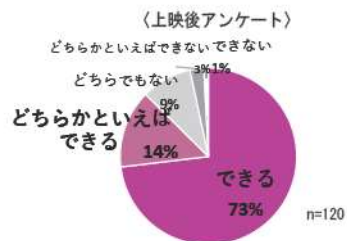
〈緑花活動について〉
花のある暮らしに大半が興味を示し、花壇参加意欲も半数にみられた。担い手となる可能性があると考ええる。

提案の検討：ナチュラリスティックガーデンの検討

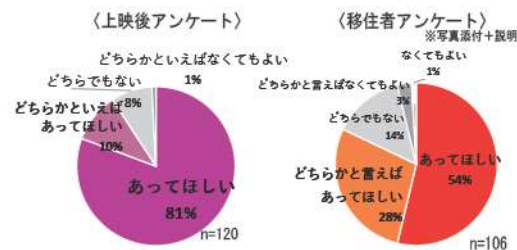
映画『FIVE SEASONS』上映後アンケートを実施

調査方法：アンケート用紙の配布
回答方法：プリコード回答法＋自由回答法
実施期間：2021年9月29日・10月2・3日
対象者：映画鑑賞者
人数：120人

Q1. 枯れ姿まで観賞する考え方に共感できるか



Q2. ナチュラリスティックガーデンが身近（公共空間等）にあってほしいか



1. 植物の見る目の変化・需要

植物の枯れ行く姿にも美しさを見いだせる見る目の変化が伺えた。

公共空間への需要は大きい。
実物のガーデン・関連映画の観賞によって評価が高まると考えられる。

ナチュラリスティックガーデンとは？

土地の環境にあった植物

野趣溢れる景観を創出

枯れ姿も観賞の対象

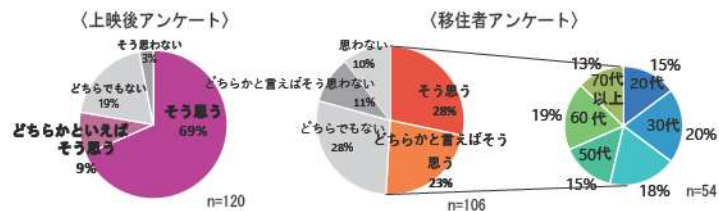
ローメンテナンスに期待



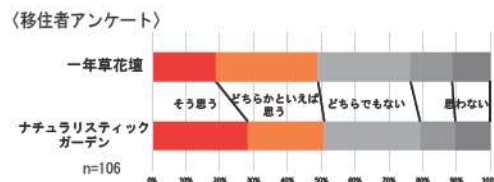
花が咲いた後、種や実をつけた姿
あるいは花がらなども観賞。
植栽、水やり、花がら摘みの
作業において、一年草に比べて
頻度が少ない

2. 参加意欲について

Q3. 公共空間でのナチュラリスティックガーデン参加意欲



Q4. 花壇タイプによる参加意欲の違い



〈市民花壇参加者の声〉



いいね。しかし…
花苗の支給は一年草が多く、
興味はあるが
すぐにはできない。

参加意欲もみられる。一年草主体花壇と参加意欲を比較すると、
ナチュラリスティックガーデンに「そう思う」の回答割合が大きく、
強い参加意欲が伺えた。年齢差はあまりない。

3. 市民参加の実例



新横浜公園 メドウガーデンクラブ

宿根草メインの花壇を市民グループで
管理している先進例。
「第33回全国都市緑花よこはまフェア」
開催時にワークショップ参加者とともに
平成29年に造成。月1回活動。
年齢層30～70代

〈花壇参加者の声〉



季節ごとの移り変わりが感じられる。

いつも花いっぱいである必要はないと
感じられるようになった。

作業やワークショップは勉強になり、
おもしろい。

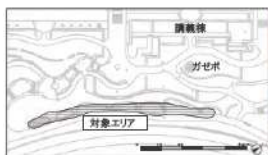
新たな植物を学び、手入れする
管理自体に「楽しみ」がある。

ナチュラリスティックガーデンに
花壇の継続性を期待できると考える。

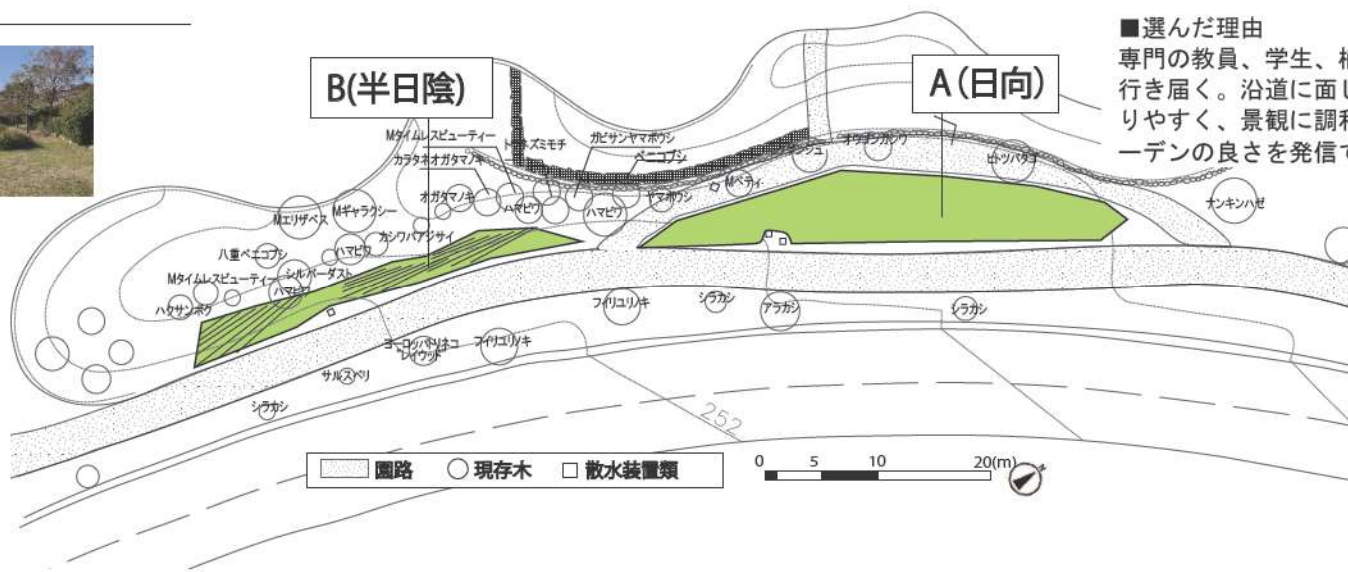
モデルプランの作成

調査結果で得られた、公共空間での需要、管理において新たな楽しみを見いだせる点から、市民花壇として持続化が期待できると考え、市民参加型ナチュラルスティックガーデンのデザインを提案することとした。

対象地概要



■対象地
淡路景観園芸学校
沿道の一年草花壇一帯
南北で日照具合に差があるため
花壇A(日向)約130㎡
花壇B(半日陰)約65㎡に分割



■選んだ理由

専門の教員、学生、植物好きの人たちが集まり管理の目が行き届く。沿道に面しており、来訪者、通行者の目に留まりやすく、景観に調和し、季節感を創出できるといったガーデンの良さを発信できると考えた。

■方向性

① 参加者が活動することにより楽しみを感じられる

② 土地の環境にあった植栽とメンテナンスができること

植物の選択

各地での取り組み事例を調査し、植物を記録した。
日向～日陰にカテゴリで分け、植物リストの参考とした。

学校	1. 屋上ガーデン	62種
	2. ペレニアルガーデン	不明
公共	3. 新横浜メドウガーデン(神奈川県)	41種以上
	4. 山下公園(神奈川県)	80種以上
	5. 宝塚市立文化芸術センター屋上	19種以上
	6. 新港中央広場(神奈川県)	34種以上



気候に合ったもの

初心者でも手入れが容易で取り組みやすい

シードヘッドや枯れ姿を楽しむ

色



形状



見ごろ



+ バリエティに富むように…

(横浜市緑化推進課「緑化推進ナチュラガーデンの手引き」参照)



除外

繁殖力が強いもの
在来種との交雑
可能性が高いもの



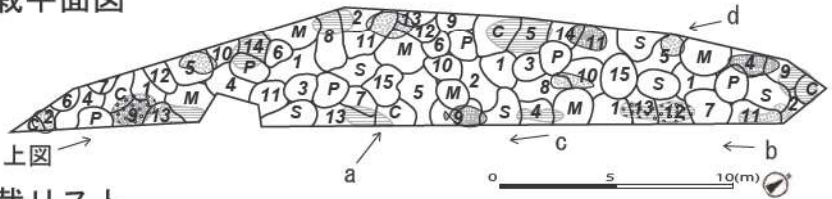
ex. アオチカラシバ
花壇外で大きくなり繁殖が
みられる(新横浜公園)



花壇 A

日向、約 130 m²
 2年目以降の初夏のイメージ
 生垣側に遠路を設け、新たな動線と管理作業の簡便化を図る

植栽平面図



植栽リスト

		春	初夏	夏	秋	晩秋	冬	常緑性	耐寒性	耐暑性	備考
球根	Cx クロッカス								強	強	
	Al アリウム'ミレニアム'								強	強	
	Ly ヒガンバナ							常緑性	強	中	冬に葉
	Na ニホンズイセン								強	中	
草花	1 サルビア'ネモローサ カラドンナ'							半常緑	強	強	*
	2 ペンステモン'ハスカレード'							半常緑	強	強	冬常緑ブロンズ色の葉
	3 アガパンサス							常緑	強	強	*
	4 ルリマツリモドキ							落葉	強	中	*
	5 アスター'リトルカラー'ウ'							落葉	強	強	*
	6 カンナ							落葉	強	強	*
	7 ゲラニウム'タイニーモンスター'							半常緑	強	強	
	8 パーベナ ボナリエンシス							落葉	強	強	*、こぼれだね
	9 エキナセア'ブルブレア'							落葉	強	強	*
	10 ペロニカストラム パージカム							落葉	強	強	*
	11 ルドベキア'ゴールドストラム'							落葉	強	強	*
	12 ワレモコウ							落葉	強	強	*
	13 アルテミシア							落葉	普通	普通	*、グラウンドカバー
	14 フジバカマ							落葉	強	強	*
	15 バイナップルセージ							半常緑	強	強	*、葉バイナッブルの香り
グラス	S スティバ'エンジェルヘア'							半常緑	強	強	実生多い
	P ペニセタム'パールファウンテン'グラス'							半常緑	弱	強	
	M ミューレンベルギア カピラリス							常緑	強	強	
	C カラマダロスティス プラキトリカ							落葉	強	強	



植栽について

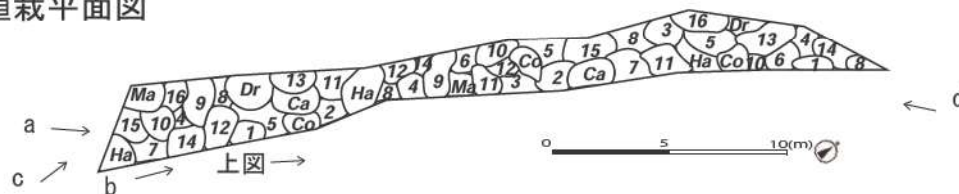
球根類は春早く咲くものに加え、淡路の名産タマネギにちなみ同属のアリウムや、冬に葉を觀賞できるヒガンバナを選択。風による倒伏に備え、グラス類で囲むような植栽配置を意識した。(a, d) のようにグラス類と草花の組み合わせを楽しむことや、花の形状に偏りのないようバランスを心がけた。(b, c) のように花壇 B までを望むと 沿道一帯に季節感を創出できることを期待したい。



花壇 B

半日陰、約 65 m²
2 年目以降の初夏のイメージ
午前中は日向、午後からは日陰となる

植栽平面図



植栽リスト

球根	Co	コロカシア'ブラックマジック'	春	初夏	秋	晩秋	冬	常緑性	耐寒性	耐暑性	備考
草花	1	アジュガ チョコレートチップ						半常緑	強	強	黒紫色の葉
	2	ミツバシモツケ						半常緑性	強	強	グラウンドカバー
	3	バブチシア'バニラクリーム'						落葉	強	強	
	4	ヒューケラ						常緑	強	普通	グラウンドカバー
	5	イトバチウジソウ						落葉	強	強	ゆっくり生長
	6	アスチルベ						落葉	強	強	花色の変化
	7	シラン						落葉	やや弱	強	*
	8	ギボウシ						落葉	強	強	*
	9	ホタルブクロ						落葉	強	普通	地下茎で増える
	10	ヤブラン						常緑	強	強	*
	11	オカトラノオ						半常緑性	強	強	*
	12	ユーパトリム'チョコラータ'						落葉	強	強	*
	13	キレンゲショウマ						落葉	強	強	蕾の形
	14	アサギリソウ						落葉	強	強	*
	15	ノコンギク						落葉	強	強	*
	16	ツツブキ						常緑	普通	強	*
グランドカバー	Ca	カレックス'エバリロ'						常緑	強	強	
	Ha	アウチソウ						常緑	強	強	
	Dr	ベニシダ						常緑	強	強	
	Ma	クサソテツ						常緑	強	強	

日本産 花・葉 シードヘッド 紅葉



植栽について

半日陰条件により、半数以上が常緑のものとなり、ほとんどが背丈も低いことから、カラーリーフとして、黒紫色の葉のコロカシアや、春に新芽が赤いベニシダ、秋に紅葉するイトバチウジソウを含めた。日本原産のものを7割をとした。
a, d) のように午前中は日向であるが、(b, c) のように午後は日陰となる。
グラス類やカラーリーフなど、葉の色や形にメリハリをもたせ、開花期以外も観賞できることを意識した。

担い手の参画に向けて



きっかけづくり

活用

クラフトイベント

移住者への広報

シードヘッドやグラス類の穂などをクラフトの材料にしたり、葉をお茶にしたり様々な形で活用できる。

花のある暮らしへ興味を持つ割合は高く、クラフトイベントなどを各市民花壇で開催しガーデンづくりへの興味のきっかけをつくる。

移住者相談所機関を通して参加を募ることも効果があると考ええる。

ガーデン参加

育てる楽しみ

植物が織りなす景観の移り変わり、手入れ自体に楽しみを感じてもらうことで活動の持続化を期待。生育不調のものが出来その都度植え替えや撤去など足し引きが必要になるがそれも含めてガーデンづくりの醍醐味だと感じてもらえるように。

市民花壇持続化

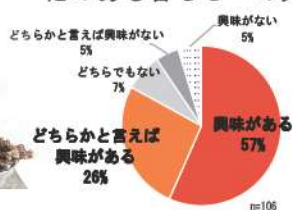
普及

支援体制

新たな花壇づくりの楽しみを普及させ、持続化を図る。

花苗の支給についても宿根草の導入に期待したい。

〈移住者アンケート〉
花のある暮らしへの興味



費用

花壇 A (約 130 m²) を対象に検討した。
芝生を剥がした部分など土壌改良の必要な面積は 34 m²。

造成費	土壌改良材	64,214
	施工費	31,334
植物材料費	草花・グラス類	195,137
	球根類	122,750
資材	マルチング(バーク)	32,400
	元肥	19,470
	合計	465,305

土壌改良材:「種実資料」, 経済調査会, 2021
施工費: 兵庫県, 土木工事標準費算定書

面積 m ²	厚み m	体積 m ³
34	0.2	6.8

真砂土	12,054
ピートモス (50L/袋)	34,800
バーライト (100L/袋)	17,360
合計	64,214

一年草花壇との比較

	植栽密度 (株数/m ²)	面積 (m ²)	必要数 (株)	平均価格 (円)	価格 (円)	植え替え回数 (年・株)	植え替え費 (円)	初年度費用 (円)	次年度費用 (円)
一年草のみ	20	116.1	2,322	140	325,080	2	325,080	650,160	650,160
花壇Aの植栽(球根含む)	植栽	116.1	1,748	植栽	317,887	0	0	317,887	39,027

一年草平均価格: 上田 (2021) 豊後県農業
植物価格別の価格: <https://www.rakuten.co.jp/ogis/>, 2022 年 1 月参照

翌年からは一部補植として植物材料費の 5% を充てる計画とした。
仮にすべて一年草で植栽した場合と比べて価格を抑えられる。

管理頻度

島内市民花壇参加者へのヒアリング内容と過去の月別降雨日数、園芸の知見などをもとに、一年草主体の管理内容を比較した。植栽翌年以降、灌水回数を大幅に削減し、植え替えも不要なため管理負担を大幅に減らせる。

	一年草主体 毎年	ナチュラルスティック ガーデン 初年度	翌年以降
灌水 (4月~10月)	74回以上	49回以下	22回程度
除草 (回/月)	1回以上	—	—
花がら摘み (回/週)	—	—	—
節切り戻し (回/年)	3	1	—
刈り取り (回/年)	—	1	—
植え替え (回/年)	2~3	—	—
施肥 (回/年)	4~5	—	—
株分け (回/年)	—	—	4年に1回程度

灌水回数の計算 (月毎)

- ・一年草:
(30 日一降水日数) ÷ 2
- ・ナチュラルスティックガーデン:
(30 日一降水日数) ÷ 3

降水日数: 気象庁, 「降水量平年値 1991 ~ 2020」

植栽翌年以降、灌水回数を大幅に削減し、植え替えも不要なため管理負担を大幅に減らせる。



市民花壇の現状



後継者不足
活動のマンネリ化…



多くの人に緑花制度使ってほしい
新しいタイプのガーデンの検討必要

淡路を花で元気にしたい！
活動を中心に様々な楽しみがある！

後継者不足感じてる一方
移住者に期待したい

持続化の検討

〈移住者〉

環境や景観を重視
地域とのつながりを求める傾向

大半が花のある暮らしに興味
半数に花壇活動への参加意欲

||

担い手となる可能性がある

〈ナチュラリスティックガーデン〉

管理に楽しさを見いだせる
植物を活用できる

枯れ姿の評価もみられ、
需要も大きい

長期的に見て管理頻度が少ない

||

マンネリ化の解消、活動の発展
維持管理面で負担軽減を図れる

=

一年草主体花壇より
参加意欲が高い
(移住者アンケートより)

市民花壇の持続化



今後の課題

担い手へのアプローチ

移住者を含め、どのようにアプローチをしていくか。
アンケート結果では地域の情報収集には SNS が欠かせないことから
広報媒体の対応も必要だと考える。

ナチュラリスティック
ガーデンの普及

普及には実物のガーデンを見て良さを感じてもらうところから。
既存の団体がナチュラリスティックガーデンに取り組みやすいような
しかけづくりが必要だと考える。
参加者と支援側が一緒に取り組めることを期待したい。